

令和4年度 学校評価表

(中間・最終)

学校名 三原市立宮浦中学校

校番(27)

a 学校教育目標	郷土を愛し 確かな学力と豊かな心をもち たくましく生きる生徒の育成 ～学び合い、高め合う宮中生～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) ◎社会のために役立つと志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○ 社会に貢献できる自立した人間を育成する学校 ○ 生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校 ○ 確かな学力と人を思いやる心、その基盤となる体力を身につけた生徒を育成する学校
-----------------	---	-----------------------------	--

	評価計画			自己評価					改善策	学校関係者評価					
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標 (目標のめやす)	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	基礎・基本を身につけ、積極的に学び合い高め合う生徒の育成	○学習規律を大切に日々の自主学習ができる生徒 ○ねらいや目標を具体的に示し、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる教育実践	<ul style="list-style-type: none"> 各種学力調査結果の分析に基づく学力向上に取り組む。 総合的な学習の時間や道徳を中心として汎用的な資質、能力(表現力・コミュニケーション能力・公共心が重点)の育成を目指し各教科等とのカリキュラムマネジメントに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査等の全国平均との比較 	全国平均+3ポイント以上	30%		30%	D	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の結果は、教科平均で全国比+1.1ポイント、NRT検査の結果は、全教科・全学年を平均すると全国比-0.2ポイントという結果であった。国語では「謙譲語」、数学では「データの活用」、英語では「話す・聞く領域」など、各学年・各教科ごとに課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 1人1授業研を通して、個別に市教委の指導を受け、授業改善を進める。 年間3回の全体校内研修を通して、授業づくりについて研修を進める。 各教科で学力調査の結果分析をおこない、授業改善に生かす。 	6			<ul style="list-style-type: none"> 学力に関しては、宮浦中学校入学前の学力にも関係していると思います。学力、授業に取り組む姿勢、提出物の状況等、入学時よりも変化が見られるか分析・説明をされるとよいと思います。 校内に掲示されている生徒の発表内容には、創意工夫が見られました。先生同士が確認しながら事業内容を検討されているのはとても良いです。 校内研修の充実が大切だと思います。そのためには、研究の柱に沿った講師の招聘が欠かせないと考えます。
				<ul style="list-style-type: none"> 授業で自分の考えと理由を明らかにし、わかりやすく表現しようとしている生徒の割合(生徒アンケート) 	80%	81%	102%	A	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の中で自分の考えを表現しようとしている」生徒の割合は、全体で81%であった。各教科の指導過程に取り入れたグループワークや、学活でのスピーチの取組を通して、相手意識をもってわかりやすく表現しようという意識が高まってきていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わることに苦手意識がある生徒や、自分の考えを持つことが苦手な生徒が、活動に参加できるような、各教科でワークシートや授業展開の工夫を行う。 クロムブックを効果的に使い、コミュニケーションの幅を広げる。 	6			<ul style="list-style-type: none"> 今回見学した授業では、正答かどうかだけでなく、理由を一言添えて指導されていたので、生徒も素直に聞き入れていたのが好印象です。 コロナ禍で校外でのコミュニケーションが難しい中、様々な取組が講じられていることは保護者として心強いです。 多様な表現方法の中でも、自分に必要な表現スキルの習得が大切だと考えます。 	
豊かな心の育成	夢や希望を抱き、社会に貢献する気概を持った生徒の育成	○不登校の未然防止 ○気持ちのいいあいさつ・そうじができ、時間が守れる生徒 ○自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> 不登校等生徒への支援に向けた組織体制を確立し、取組を充実させる。 ベル着、あいさつ、掃除の徹底に取り組む。 生徒の自己有用感の育成を目指し、各種学校行事や生徒会活動等への主体的・積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校に行くのを楽しいと思っている生徒の割合(生徒アンケート) 	90%	89%	99%	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「学校に行くのを楽しいと思生活している」の肯定的回答は、89.4%であった。日々の授業や各学級生活の中で、担任や学年教職員を中心とした指導により、生徒が安心して過ごすことができている成果であると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年や学校全体の教職員で生徒一人一人をしっかりと見ていき、連絡、報告、相談を密に行う。生徒の日常の姿やささいな変化等について常に情報共有し、生徒が安心して生活できる学校づくりを進める。 	6			<ul style="list-style-type: none"> 些細なことでも褒めること、注意することが、達成度に反映されていると感じました。 コロナ禍だからこそできる取組が学校生活の充実につながると思います。その中でも、授業の中での理解が学校生活の充実にも効果的だと考えます。 	
				<ul style="list-style-type: none"> あいさつ、時間、掃除について肯定的に自己評価する生徒の割合(生徒アンケート) 	90%	96%	107%	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート結果、肯定的回答は、あいさつ90.9%、時間98.5%、掃除98.5%であった。 生徒会執行部を中心に月間目標の掲示や呼びかけを行ったことで、生徒の意識が高まった成果であると考え。 生徒の自己評価は高いが、自主的に取り組むことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き生徒会執行部が中心となって意識の高揚と行動化に取り組んでいく。 3つの習慣に関して生徒一人一人が自主的に取り組めるように、呼びかけに加え、様々な場面で評価して意欲を高める。 	6			<ul style="list-style-type: none"> 様々な行事が生徒主体で行われていることが、そのまま達成度に反映されていると感じました。 主体的な学びの主体である生徒会の取組が有効だと考えます。小学校でも児童会の主体的な活動を推奨していきます。 	
信頼される学校	生徒・保護者が本校で学ぶことを誇りに思える学校	○学校満足度の向上 ○郷土愛の育成 ○働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの変革」の実現に向けた授業力向上に組織的に取り組む。 定期的、計画的な学校情報の発信に努める。 生徒に対してより効果的な教育活動を行うことを目的として働き方改革を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のわかりやすさについて肯定的に評価する保護者の割合 教育活動に満足している保護者の割合(保護者アンケート) 	85%	83%	98%	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「授業は分かりやすい」72.2%、本校教育活動満足度92.7%、平均82.5% アンケート「授業は分かりやすい」生徒86.5%、保護者72.2%で、授業理解度を高める指導が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの活用と問いの工夫、ICT機器の活用に関する校内研修や日常的な授業改善で分かりやすい授業を実現する。 授業参観で保護者に授業を公開し、授業の工夫等について理解を促す。 	6			<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で授業参観など保護者が参加できる行事ができていない現状の中、生徒と保護者で学校の様子について会話されていることが高い満足度につながっているのではないかと思います。 生徒自身の変化が保護者の意識の変化につながります。小学校も、児童自身の成長が保護者の信頼につながると考え、学力の定着に尽力していきます。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 今年度HPを見たことがある保護者の割合 情報発信について肯定的に回答する保護者の割合(保護者アンケート) 	80%	71%	89%	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートのHP閲覧率46.4%、「HPや各種たより、メールの内容は分かりやすい」95.2%、平均70.8%。HP・学校だよりによる情報発信に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> HP更新、学校だより発行、月行事予定表配付を定例化する。 多様な媒体での情報発信をより効果的に行うため、内容の棲み分けをしたり、同一内容の掲載で強調したりする。 	6			<ul style="list-style-type: none"> HP閲覧に関しては様々な行事が制限なく行えるようになれば上がると思います。 HPの制限がある中で、「すぐー」等の活用が効果的だと考えます。 	
				<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務が月45時間以内の職員の割合 	80%	46%	57%	D	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間外労働月45時間以内の教職員45.5% 大会引率を出張とし、振替の休みを確保したことで連続勤務の状況が少し改善された。しかし、授業準備、採点成績業務、校務分掌等の日常的な業務の効率化が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 一斉定時退校日を行き予定に位置づけ、月1回完全実施を推進する。 部活動休養日の計画的設定、日課の見直し、行事の精選を推進する。 	5	1		<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は、先生だけでなく、三原市・地域の方の共通問題として早急に対応する必要があると思います。 小学校でも厳しい現状があります。45時間を超える業務を明らかにすることで、改善への方策が明確になると考えます。 教育現場の特殊性や部活時間の制限という困難の中、適切に対応されていると思います。今後、もう少し踏み込んだ改革をせざる負えないと感じました。 	

[j: 自己評価 評価]

A: 100≦(目標達成) B: 80 ≦(ほぼ達成) < 100
C: 60 ≦(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

[l: 学校関係者評価 評価]

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正ではない。
ハ: 分からない。